

我が国におけるラグビーの普及を阻害する要因についての考察

Consideration about the factor which checks the spread of the Rugby in our country

1K09B044 小野 稜太

指導教員 主査 作野 誠一先生 副査 石井 昌幸先生

【目的】

日本にラグビーが入ってから 110 年以上が経過し、今日まで発展してきた。現在では世界有数のチーム登録数、選手数であり、ワールドカップには過去 5 大会すべてに出場している。筆者自身も小学校 1 年生～高校 3 年までは選手として、それ以後は観戦者側としてラグビーに携わってきた。ラグビーをプレーしたことがある者は皆ラグビーを素晴らしいスポーツとして認識しているのに対し、世間では危険・汚い・怪我が多い、という「3K」のイメージが広まっているなど、自分の認識と周囲の認識の間にギャップを感じていた。しかし海外、特に欧米では野球やサッカーと同様、ラグビーがメジャースポーツとして国民に親しまれている。我が国において、ラグビーが大衆に普及しない要因は何かを明らかにし、普及させるにはどのような要素が必要なのかを分析することを本研究の目的とする。

【方法】

第 1 章では本研究の背景及び動機について述べる。第二章では日本ラグビーフットボール協会の登録者数の推移や他の競技人口・他の国々のラグビープレイヤー数との比較から日本におけるラグビー普及の現状を明らかにしていく。またその現状を受けての日本ラグビーフットボール協会の施策とその問題点について、ラグビーにおける人材育成の可能性についても言及する。第三章ではラグビーが国技として扱われ界で最も国民に親しまれているニュージーランドのラグビー普及の成功の要因は何だったのかを分析し、日本と比較する。第 4 章ではここまでのまとめとして、日本にラグビーが普及していない要因と、今後日本においてラグビーが大衆に普及するにはどのような方向性を辿るべきなのか、関連文献を参考に展望する。

【結果】

本研究を通して、日本のラグビーの競技レベルや競技人口は世界トップクラスであることが分かった。しかし、ラグビーがメジャースポーツとして定着しないのは大きく分けて、二つの要因があると分析する。一つは資金不足である。資金不足によって環境や指導者の育成制度が整わない等ラグビー離れの要因である「3K」のイメージにつながってしまっている。二つ目はプロリーグが発足していないことである。野球やサッカーのように、日本でメジャースポーツとされているスポーツは必ずプロのリーグが存在する。ラグビーはプロリーグがないために国民の関心も薄く、テレビ放映もされない。この二つを改善していくことが今後のラグビー界にとって重要な課題である。トリプルミッションに示されるよう普及・強化・資金の三面からのマネジメントは必要不可欠である。

【考察及びまとめ】

結果を踏まえた上で日本のラグビー界が今後さらなる発展を目指すならば、企業とイメージの整合性やターゲットマーケットの整合性、ターゲット企業の経営状況の三つを選定の柱としてより良いスポンサーシップ契約を結び、安定した潤沢な資金を得ることや、普及・強化・資金、どの面から見ても優れたプロリーグの創設を目指すことが挙げられる。Jリーグのようにリーグ全体としての目標と、そのために各クラブがなにをすべきか具体的に定める必要もある。日本ラグビーフットボール協会は今まで、強化の面を重視していたが、普及や資金に関しても早急に取り組むべき課題は多い。本研究では現状の日本のラグビーの様々な課題が見えたがそれと同時に、ラグビー独自の人材育成の特性やスポンサーシップ・プロリーグ設立による可能性など、新たな希望も見つけることができた。今後の日本のラグビーに期待したい。